

2020年1月28日

2019年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

妊孕性の知識・認識向上のための教材の開発

Development and Evaluation of Teaching Material
for Increasing Fertility Awareness and Knowledge
for Young Adults

18MW016

松田佳子

要旨

【研究目的】若い世代を対象とした妊孕性についての教育用パンフレットや冊子はすでに作成されているが、それらの紙媒体は対象者に広く行き渡っていない。若い世代を対象とした、妊孕性についての教育を行う媒体として、SNS 上で閲覧できる映像教材が効果的であると考えた。そこで、本研究では、18歳～20代が入手しやすく、また、妊孕性についての知識・認識向上に効果的な教材を作成し、教材の評価を行うことを目的とする。

【研究方法】教材の対象は18歳～20代とし、SNS上に掲載することを想定した映像教材を作成することとした。既存のパンフレットや冊子をもとに(1)妊孕性の言葉の意味(2)加齢とともに妊孕性が低下すること①女性の卵母細胞の数の減少、卵子の質の低下②婦人科合併症の増加③精液の量の減少、精子の運動率の減少(3)不妊治療①不妊治療の種類②不妊治療における出生率の割合に内容を絞り、「Vyond」という動画作成ソフトを用いて約3分間の映像教材を作成した。評価者は18歳～20代の男女とし、機縁法にてリクルートした。研究への同意が得られたら、Googleフォームへアクセスしてもらい、映像教材の視聴及び評価を行ってもらった。研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会にて審査を受け、承諾を得た上で実施した。(承認番号：19-A075)

【結果】20歳～26歳の男女39名から教材の評価を得た。教材の見やすさについて、図やイラストがあつてよかった、シンプルで見やすいなどの意見が挙げられた。また、教材の長さについては、多くの評価者がちょうどよかったと評価していた。妊孕性の言葉の意味、男女ともに年齢が上昇するにしたがつて妊娠しにくくなることについて、全ての評価者が理解できたと評価し、不妊治療を行っても必ずしも妊娠できるわけではないことについては、97.4%の評価者が理解できたと評価した。また、対象者の半数以上が映像教材視聴後に自身のライフプランについて考えようと思ったと評価した。教材に興味を持てたと評価した者は全体の7割以上にのぼったものの、「話の切り出し方がわからない」「デリケートな話になるので積極的に見せることは難しい」など、周りに積極的にすすめるには抵抗があるという意見が挙げられた。

【結論】教材について、全体的には肯定的な意見が得られ、対象者は映像教材視聴により妊孕性についての知識の獲得につながった。しかし、対象者の中にはライフプランについて考えようと思わなかった者もいたことから、当事者意識が低い対象者へのアプローチ方法や映像教材の効果的な普及方法についてさらなる検討が必要である。